

全国長南会通信 57号

事務局 : 300-0301 茨城県稲敷郡阿見町青宿 930 長南秀則 TEL/FAX XXX-XXX-XXXX

発行日 平成 29 年 9 月 1 日



長岡京長岡天満宮で 俊春会長、中小路名誉宮司、喜善、秀則

再び京都へ

平成 29 年 5 月 12 日～14 日、俊春会長と共に再び京都へ行った。主な訪問先は、長岡天満宮と北野天満宮。京都在住の長南喜善さんのお骨折りで、中村就一さんの大著「長南氏の研究」を両天満宮に寄贈することを交渉したところ快く了承されたため。また、俊春会長が近日中に、俳句と長南氏に関わる著書を出版するが、著書に菅原道真や天満宮の記事があり、その内容について、天満宮のご意見を聞くということが目的である。

長岡天満宮訪問時には、名誉宮司の中小路宗隆さんとお会いすることができたので、会長と喜善さんからこれまでの長南会の活動などを説明し、長岡天満宮の由緒や現在の行事などのお話を聞いた。長岡天満

宮は鳥居をくぐると、静かな池に橋がかかっており、季節により色々な花が咲いている。この日は霧島つつじがやや満開を過ぎた頃だったが、アヤマが咲いていて、自然豊かなすばらしいところである。

続いて、京都市内の北野天満宮へ。北野天満宮は天神様の総本山であり、地元では北野さんと親しみをこめて呼ばれている。この日も観光客は多く、修学旅行の学生も多かった。社務所へ通され、お会いしたのは梶道嗣禰宜。書籍「長南氏の研究」を受け取っていただき、俊春会長が、自身の出版する本の内容を説明し、その中の菅原道真や、その後長南氏に繋がっていくことについてご意見を伺ったが、本の内容については、著者の考えなので、北野天満宮からは何も言うことは無いとのことであった。また、会長が山

形から持参の天神坐像の掛け軸の鑑定については、古いものではあるけれど、かつては全国各地で行われていた、天神信仰で使われたもので、数多くあるものであるらしい。梶禰宜の話の中で興味があったのは、天神様が全国に広がっていて、その中には菅原道真の遺骨があるとされているものがあるが、それを否定したことと、北野天満宮は江戸時代まではお寺だったと言っていたことであるが、これについては後ほど詳しく調査してみようと思っている。

道真坐像 →



北野天満宮



文字天満宮



大原寂光院



大原三千年院

下記は京都の長南喜善さんからの便り。長岡天満宮で美濃部氏と会い、美濃部氏は天神様の末裔だと聞き、長南氏とは遠い親戚にあたりと話が進んだという。

全園長南の合戦時存も事しき喜善さんか！
 七月七日長岡天満宮参り終りし事と書かずと
 言ふれりし事すが既得達言草草と書きて
 既言て既りて天より天は日目を既りたり
 六月末に之は日神様合戦なり 日中は若き
 朝晩は肌寒きと感もれ既りて山に参りて
 マツノ木野を参らんけり 長南よと南喜善
 と般若寺を讀入 長南年志さんとの書合と
 お考りして本すた 以可合戦の御介も
 おられす 昔に在り長南合戦もあつた
 たりと既りて合戦の中にも水も氣に授けられ
 氣に花も参れり 昔に在りおたまた計れた
 秋も暖か心も静し 昔に在り合戦の時も
 菅原道真公 羊子淳茂の末裔
 美濃部氏と知り合に
 七月五日長岡天満宮参り終りし事と書きて
 日神の御心を感へり 菅原喜善の御末裔か
 美濃部氏と知り合に
 先祖も昔に合戦にも事なりと書きたる事か
 の座を天神様も末裔にも事なりと書きたる
 滋賀県美濃部村も事 昔に在り合戦の時
 合戦の道案内も入た 新洲記の事と書きたる
 事なりと長南の合戦時存と御介も
 事なりと書きたる事と書きたる事と書きたる
 長南合戦は美濃部氏は御末裔と云ふ事
 合戦の時にも事なりと書きたる事と書きたる
 是非得見取たる又道案内も事なりと書きたる
 考へたりと書きたる
 美濃部合戦も大敵と書きたる事と書きたる
 合戦の時にも事なりと書きたる事と書きたる
 人並しと書きたる事なりと書きたる事と書きたる
 長南合戦は美濃部氏は御末裔と云ふ事
 事なりと書きたる事と書きたる事と書きたる
 美濃部合戦も大敵と書きたる事と書きたる
 合戦の時にも事なりと書きたる事と書きたる
 人並しと書きたる事なりと書きたる事と書きたる
 長南合戦は美濃部氏は御末裔と云ふ事
 事なりと書きたる事と書きたる事と書きたる

美濃部勘左衛門は菅原道真の末裔で、道真が失脚し大宰府に配流になると共に、その四子淳茂も近江水口に配流され、ここで直茂を生んだ。直茂の20台の孫、源吾兵衛尉久安は佐々木高頼に味方し水口町美濃部村など7千石を与えられ、以来美濃部村に住して姓を美濃部とした。美濃部氏はその後、浅井長政に仕えていたが、浅井長政の滅亡とともに、織田信長に仕え、この頃秀吉に認められた。美濃部勘左衛門は、賤ヶ岳の戦いで秀吉の道案内のほか、時には的中に入り戦うなど、数々の功をあげた。勘左衛門の子孫は石田三成に従い関が原の合戦に参戦したが敗れ討死。以来子孫は太刀を捨て村人として生活した。(賤ヶ岳の案内人美濃部氏)

菅原道真と梅の花

中村就一著 長南氏の歴史物語より

菅原氏となつてからこの一族からは学問にすぐれた人がつづいて出ました。中でも有名なのは菅原道真です。道真は大変な努力をして広く学問をおさめ、学者として世の中の人々から高い尊敬をうけるようになりました。

当時の日本はすべての学問や技術を中国大陸から学んできましたが、これは630年から続けてきた遣唐使つまり唐の国への留学生が学んで帰ってきた知識が中心でした。留学生の中には最澄、空海、円仁のような立派な僧や学者が多く、日本の分化発展に大きな役割を果たしたのです。

しかし当時は往復の航海でたびたび船が嵐で沈みまし、この時代になると唐の国力も衰えましたので、道真は遣唐使をやめることを天皇に申し上げその通りとなりました。

道真はその後右大臣という高い位に登りましたが、その人気をねたんだ左大臣の藤原時平のたくらみで、とうとう901年に北九州の大宰府の、今までより低い位の役人を命ぜられ都を去らなければならなくなりました。

九州へ向かって出発するときは、家の庭に梅の花が香り高く咲いていました。この梅に向かって読んだ道真の歌は有名です。

東風吹かば 匂いおこせよ梅の花 ありじなしとて春を忘るな

このうたの意味は、春になり東風が吹くようになったら、主人がいなくても春を忘れないで匂い床しく花を咲かせよ、というもので梅をこよなく愛した道真のやさしい心がこめられています。

この頃、道真には善智磨という名の赤ちゃんがありました。この子や奥様を都に残して遠い九州へ旅立っていったのです。

大宰府での生活はみじめで「かつて宮中で天皇からくださった衣服をおしいたいて当時をしのんでいます。」というような漢詩を作ったりしたこともあります。氣候風土が変わったためか体の調子をこわし、都の奥様から送られた薬もはかばかしく効かず、とうとう903年2月に59才でなくなりました。

その後、都ではふしぎなことに雷が落ちて火災がしきりに起こったり、ほうそうという伝染病がはやったり、よくないことがつづいたので、人々は道真の霊がこのようなたたりをしているのではないかといいておそれました。

そして道真を天神（雷の神）としてこわがったので朝廷もすてておけず、923年には道真に対し右大臣に戻し、正二位の位を贈って霊を慰めました。

このようないきさつがあつて、道真の菅原一族の人たちは、就職や出世も思うようではありませんでしたが、道真の名誉が回復されると、もともと秀才が多いこの一族からは次々に位の高い役人になる人が出てきました。

道真の三男の景行は常陸介という長官になって茨城県に來ましたが、その時道真の遺骨を持ってきて真壁町の羽鳥というところに神社を建てておまつりしました。これが天満天神宮として日本で最初の神社です。（長南氏の研究 118頁）

特にめだつのは、一族の中から上総国、下総国、安房国の長官になった人が9人にもものぼることです。子の人たちはつぎつぎに都から下つてきては2年ほどで都へ戻るということをつくりかえていました。

これらの人の中には菅原孝標たかすえがあり、そのむすめは上総国にいる間に源氏物語を読んで都を恋しがっていましたが、いよいよ都へ帰ることになってから都に着くまでの日記をつづりました。これが有名なさらしな 日記にっきです。

道真は梅をこよなく愛した人でしたから、道真の子孫である長南家は梅を家紋としました。今でも梅鉢を家紋とする長南家

が多いのはそのためです。そして梅は小枝であっても火にくべるなどか、核を割って食べてはいけないとか、いろいろ梅

にちなんだしきたりやタブーがあることは、皆さんよくご存知でしょう。

天神講(てんじんこう)

私の小学校時代に、近所の子供たちと米を持ち寄り、当番の家に集まり、料理をし皆でご飯を食べたり遊んだりしたが、それを天神講と呼んでいた。天神様の掛け軸があったか、習字や勉強をしたかどうかははっきり覚えていないが、天神講を行った記憶はある。しかし、いつごろからか途絶えている。

「天神講」とは、こども達による行事で、勉学の向上を祈るために行う。「天

神」とは天神様、つまり菅原道真のことを指し、道真が学問に優れていたということから、学問の神様として全国で祀られている。昔は、夜遅くまで友達と遊んでいても何も言われない天神講の日は、子ども達にとって楽しい行事だったようだ。また、この行事は、子どものお祭りで、大人は一切口出しをしないことになってる。

しちやごよみ 質屋暦(落語)

立川志の輔の落語「質屋暦」を聴いた。内容は、明治5年12月に、太陰暦から太陽暦が変わり、12月2日が大晦日、翌日12月3日を翌年元旦とする政府の方針が発表され、質屋の利息計算が、因業な質屋側と借手との解釈の違いで混乱する噺である。質屋は月が変わったので1ヶ月分の利息を請求するが、借手は日割り計算が妥当ではないかとなり、終いには「女房を質に入れる、入れない」の話になる。これは、古典落語ではなく、志の輔の新作落語である。また、浅田次郎の短編時代小説の「西を向く侍」にも、暦が変わるため幕府の天文方の役職を追われてしまう話がある。いずれも、明治5年の暦の改正のことである。

落語「質屋暦」では、暦改正に至る経緯を次のように説明している。

明治の時代に入ってから、政府の財政は逼迫しており、公務員の給与削減や人員削減などの案が出たが、それよりも太陽暦(グレゴリオ暦)導入によって解決しようとした。それは、時の参議「大隈重信」が立案して、「福沢諭吉」が説明書を書いた

とされている。

明治5年12月3日が太陽暦では翌年の1月1日なのである。政府は12月の1日と2日の2日分の給料は払いませんと一方的に通達して1ヶ月分の人件費を浮かした。また、旧暦では明治6年は閏月で調整するため6月が2回あり(普通の6月と閏6月とを設け13ヶ月)新暦では、閏月は無いので1年は12ヶ月となり、さらに1ヵ月分の人件費が節約されるということになる。

太陰暦(太陰太陽暦)について、私自身調べてみたのでこのからくりをご説明する。

太陰暦は、月が地球を1回転することを1ヵ月とする。(朔望月、朔(新月)から望(満月))この朔望月は約29.5日なので1年は354日になる。当時は1ヶ月は大の月を30日、小の月を29日としていたのだろう。そうすると、実際の太陽の動き(1年365日)との誤差が年間11日出てくる。それを調整するために、3年毎に閏月を設け、その年は13ヶ月にしたということである。つまり、明治6年の6月が閏月を設ける年であった。

ここまででわかるように、3年に1ヵ

月ずれるために、同じ日であっても季節が違って来る。そこで、これを補うために24節気を使った。冬至（夜の時間が最長）春分（昼夜の長さが同じ）夏至（昼が最長）秋分（昼夜の長さが同じ）などである。立春を冬至と春分の中間にして、その前日を節分としている。立春を新しい年とするため、節分を年越しと言ったのだろう。その他、立夏、立秋、立冬など、1年を24に分けて、季節を表すようにして、農耕や漁業に役立てた。この24節気と前述の太陰暦を合わせた太陰太陽暦を、江戸時代まで採用していた。

落語は江戸末期から明治にかけての時代

背景のため、暦のほか、度量衡、お金の単位、時間など、現在の感覚とは違って解りにくいものがある。それを調べてもう一度聴くと、さらに面白くなると思う。

例えば、お金の単位がでてくるものは「紺屋高尾」。久蔵が3年働いて貯めたお金が、18両2分。これに親方が1両2分足して20両にして云々... という話がある。これでわかるように、現在のように10進数ではなく、4分が1両である。同じように4朱が1分である。

時間とお金がでてくるのが有名な落語「時そば」。等...

会費ありがとうございました。

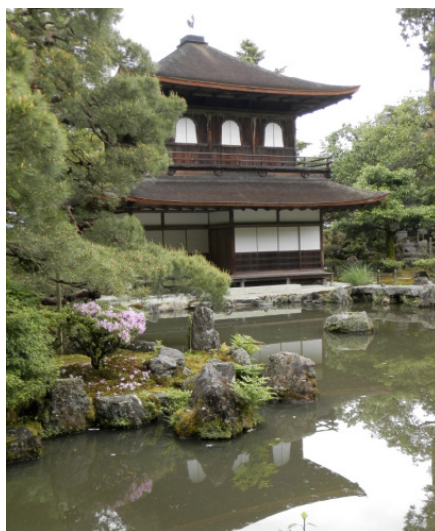
2017/01/01~2017/07/31

合計 246,000円 55人

長南 一男 北海道 3,000	長南 孝幸 福島県 5,000	長南 隆 千葉県 3,000
長南 一男 北海道 2,000	長南 勝幸 福島県 2,000	石井 敏夫 千葉県 9,000
長南 昇 北海道 2,000	長南 仁 福島県 5,000	田村かなさん 千葉県 2,000
長南 勘一 宮城県 3,000	長南 信夫 福島県 4,000	長南 弘美 東京都 4,000
長南 政直 宮城県 2,000	長南 武夫 茨城県 10,000	長南 章彦 東京都 2,000
長南 亀悦 宮城県 2,000	長南 秀則 茨城県 10,000	斎藤 武夫 東京都 32,000
長南 和夫 宮城県 3,000	長南 照光 茨城県 12,000	長南 充浩 東京都 2,000
長南 征二 宮城県 2,000	長南 清 茨城県 2,000	長南 清 東京都 10,000
長南 慎一 宮城県 6,000	長南 国男 茨城県 2,000	長南 恒弘 神奈川県 2,000
長南 良彦 宮城県 2,000	長南 信雄 茨城県 2,000	長南 一夫 神奈川県 2,000
長南 竹雄 宮城県 2,000	長南 貴士 埼玉県 2,000	長南 光郎 神奈川県 2,000
長南 俊蔵 山形県 2,000	芦原貴美大 埼玉県 10,000	西海 清 神奈川県 3,000
長南 正 山形県 3,000	長南 俊春 埼玉県 22,000	坂上美智代 神奈川県 2,000
長南 成 山形県 5,000	長南 勇 埼玉県 2,000	長南 守 静岡県 2,000
長南 吉美 山形県 2,000	長南 邦年 埼玉県 4,000	白井 ヒサエ 愛知県 2,000
長南 源一 山形県 2,000	長南 亘 埼玉県 2,000	長南 喜善 京都府 2,000
長南 恵三 山形県 2,000	長南 仁志 埼玉県 10,000	長南 忠直 奈良県 2,000
長南 厚 山形県 2,000	近藤 忠行 千葉県 3,000	
長南 賢一 山形県 5,000	長南 誠一 千葉県 2,000	



平安神宮



銀閣寺



城南宮



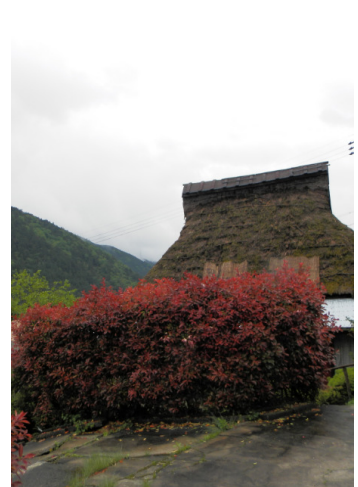
大原の古民家



大原三千院参道



北野天満宮



大原の古民家



伏見稲荷



哲学の道



大原寂光院

